

4

宮崎市における基本健康診査の取り組み

～メタボへの挑戦～

- 川野雅記・古市ミドリ・佐藤真理子・小島雅子・鬼束美江
・三谷苑子・押川聡史・湯元安男・日高良雄（宮崎市保健所）

【はじめに】

宮崎市では、平成20年度からの特定健診・保健指導を見据え、基本健康診査の項目として平成18年度より「腹囲」測定を導入した。平成20年度より実施される腹囲に着目した特定保健指導対象者選定に資するため、腹囲測定値を使ってデータ分析を行い、宮崎市におけるメタボリックシンドローム（以下「メタボリック」とする）の現状を把握する。

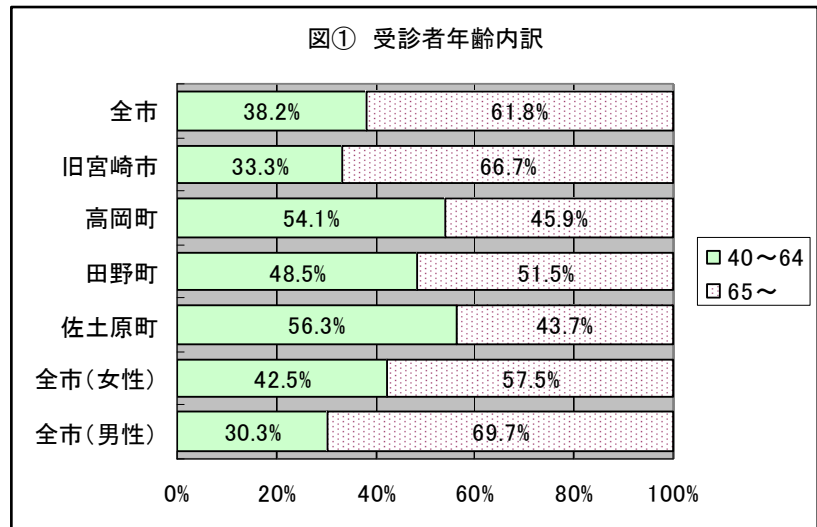
【対象と方法】

対象：平成18年6月から平成18年12月までの宮崎市における40歳以上の基本健康診査受診者、24,235人

方法：腹囲の数値を基本とし、中性脂肪値、血圧値、空腹時血糖値、BMI等との関連について、性別・地域（旧宮崎市・佐土原町・田野町・高岡町）別比較を行う。

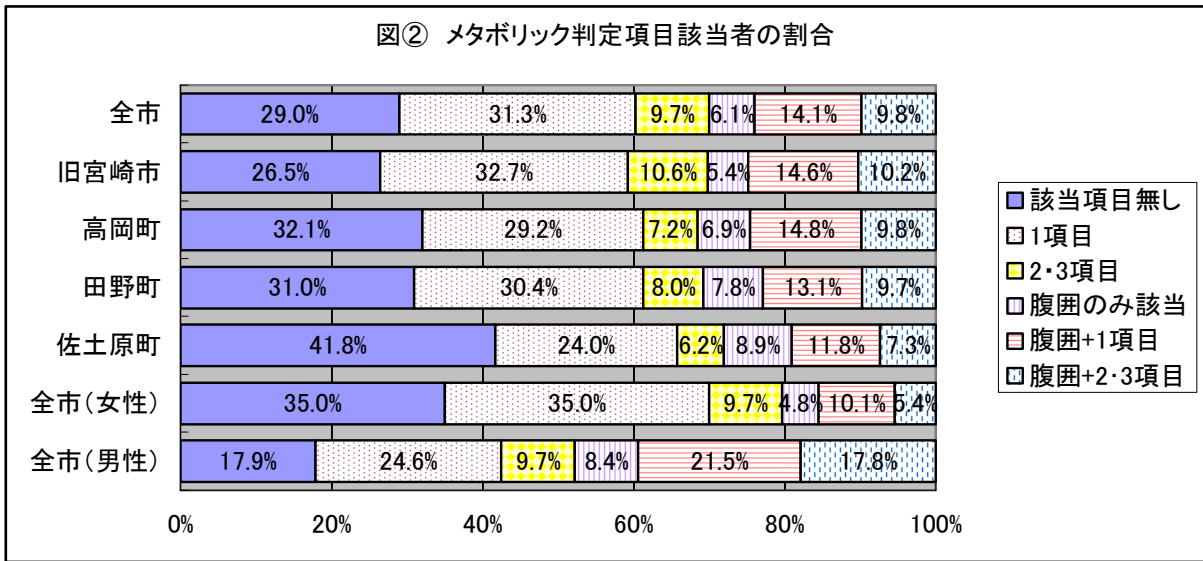
【結果】

図① 受診者の年齢内訳は65歳以上が全受診者の60%を占める。3町域では64歳までと65歳以上がそれぞれ半数であるが、旧宮崎市の受診者の年齢層が高くなっていることで、全受診者の65歳以上の年齢層の割合が高くなっている。また、64歳以下を性別で見ると、女性が男性より約10%多くなっている。

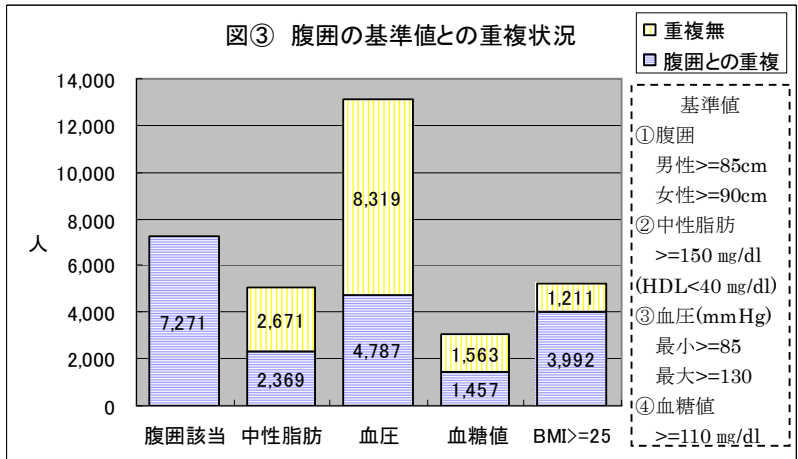


図② メタボリック診断基準における該当者（腹囲+他2項目以上）は全体の約10%で、地域差はほとんどみられない。性別で比較すると明らかな差があり、男性はメタボリック該当者が約18%と高く、女性は約5%である。また、メタボリックの予備軍と考えられる層（腹囲+1項目）についても、男性が約2倍の20%となっている。ただし、腹囲基準が該当せず、他の2項目もしくは3項目に該当している層はどちらも10%程度であり、腹囲以外の1項目のみに該当している割合は女性が10%高くなっている。

地区別にみると、佐土原町域が他と比べメタボリック該当者及びその予備群（腹囲+1項目、または腹囲は該当しないが他2・3項目が該当する）が少なくなっている。高岡及び田野町域はほぼ同様の結果であり、旧宮崎市域は受診者の年齢が高めであることも考えられるが、若干メタボリック予備群が多くなっている。



図③ 腹囲の基準値とその他の項目（脂質・血糖値・血圧）及び以前から基準値として利用されているBMI の関係を見ると、中性脂肪・血糖値は約半数が重複している。血圧は4割程度であるが、腹囲からみたときの重複は7割程度である。また、BMI 値については8割弱が重複しており、腹囲との相関関係が高いことが伺える。特定保健指導の対象者選定において、腹囲が基準値以下であった場合に BMI 値から再度対象者を拾い上げるが、腹囲測定を補完する方法として有効と考えられる。



【まとめ】

今回の結果から、腹囲測定については、その他の項目との高い相関関係に加え、基準値としての分かり易さから、その有用性は高いと考えられる。ただし、腹囲の基準値には該当しないが、他の2・3項目に該当する割合も全体の10%程度である。また、腹囲を除く2・3項目に該当する全ての者のうち腹囲基準値との重複割合は、男性約62%であるのに対し、女性は33%と低めであり、女性の基準値(90cm以上)がやや大きすぎるように思われる。

20年度からの特定保健指導の対象者は、BMIや既往歴等との組み合わせにおいて選定するが、今日、メディア等による情報から、腹囲が基準値以下であれば大丈夫といったような誤解を市民に与える危険性もある。自治体が進める生活習慣病の予防に際しては、腹囲の測定値のみにとらわれることなく、全体的な考察のもと、地域・年齢・性別などの違いにあわせた啓発や保健指導を行っていくことが重要であると考えられる。